



まちの話題お届けします

● ペットボトルイルミネーションタワー製作

園児たちとの絆を深める



ペットボトルでイルミネーションタワーを作る園児と青年部員

12/19 石川保育所の年長児たちが廃棄されるペットボトルを活用して、イルミネーションタワー製作に挑みました。

与謝野町商工会青年部が地域貢献の一環として、環境問題などを考えることを目的に行なわれたこの取り組み。園児たちは青年部員から積み方を教わりながら、慎重に水の入ったペットボトルを積み上げタワーを製作。その後、タワーが色鮮やかに点灯すると大きな歓声を上げて喜んでいました。

● よさのみらい大学リベラルアーツ講座

対話から生まれる新しい考え



ワークショップ形式で開催された講座

1/19 よさのみらい大学リベラルアーツコース講座「哲学のみらい」が知遊館で開催され、約30人が参加しました。

講座では哲学対話という方法でじっくり対話し、新しい考えが生まれたり自分の気持ちに気づくことを体験。講師の永井玲依氏は「対話とは、話すことよりも聞くことが実は本質と考えている」と説明。その後、参加者らで「趣味とは何か？」をテーマに哲学対話が行われ、多様な価値観を聞き入っていました。

地域おこし協力隊通信

〔第77回 与謝野駅周辺活性化&移住・定住促進活動担当 郭隊員〕

以

前、ホテルで働いていたときに「お客様に良い感情がいつぱいの記憶を提供せよ」という言葉をたくさん聞きました。お客様に良い記憶を残してもらうためには、場所の雰囲気などさまざまな要素がありますが、この言葉の最も重要なことは良い感情を提供する「人」だと思います。今、私の年齢は36歳です。ホテルで学んだこの言葉は、私の頭の中からなくなりません。1年1年が経つにつれ、より共感する言葉だと感じています。

世界にはさまざまな飲食店があり、さまざまな見どころも多のですが、時間が経つにつれて私の感覚は鈍くなり、どのお店も似たように感じてしまっています。しかし、そのお店の従業員の明るい接待と親切な対応、そして一緒にいる人々と良い時間を過ごすことで、食べ物もより一層おいしく感じられ、そこをまた訪ねて行きたくなります。与謝野町に引っ越してから、初めて大阪の知人が来ましたが、私の妻の知人女性と子どもが、

私の家で2泊3日を過ごしました。山田小学校で元プロサッカー選手によるサッカー教室と一緒に見学し、地域の皆さんと話をしましたが、「皆さんが親切で良かった。特に近所の子どもたちと小学校で思いっきり走って遊ぶことが大阪では想像できない」と喜んでいました。それだけでなく、阿蘇シーサイドパークでも子どもがとても喜んで遊んでおり、見守る私たちも気持ち良かったです。その後、阿蘇シーサイドパーク近くの飲食店で夕食をとりました。お店の皆さんの対応がとても親切であり、食べ物もおいしかったので、次もここに来ようという話をして夕食を終えました。

夕食後、

再び阿蘇シーサイドパークに戻り散歩しながら子どもと遊びました。知人女性は一住んでいる大阪



時の贈り物 〔第137回 巨石と信仰・伝説1「与謝の二ツ岩」〕

与謝区の二ツ岩地区には、地名の元にもなった巨石があります。二ツ岩神社のご神体としてまつられており、信仰の対象が巨石です。神社と言いつつも社殿はなく、巨石の前に小さな祠が設置されています。

この巨石「二ツ岩」は神道学でいう「磐座」と言われるもので、巨石を神霊を呼び寄せるときの神座の舞台に見立てたものです。固く重い巨石に対して、人間の力が及ばない永遠不滅の神性を感じた原始的発想の産物と言えます。

巨石は信仰の対象になるほかに、伝説文学を生み出すことがしばしばあります。二ツ岩の場合は、大江山の鬼退治伝説に係したものです（加悦町誌／1974年発行、520頁）。

● 鬼退治のときに源頼光の弁当の中に入っていた砂をはしでつまみ捨て、二つに割れたもの。

● 酒呑童子が飯の中に入っていた砂をはしでつまみ捨てたもの。

● 麻呂子親王に征伐された鬼が大江山から投げ下ろしたものの。

素朴なエピソード的な伝説ですが、巨石の存在に刺激された人間の好奇心が創作したものと言えるでしょう。

（与謝野町教育委員会）



神座とされた二つの巨石



阿蘇シーサイドパークの遊具で遊ぶ子ども

は日が暮れると公園や遊び場が薄暗く、中高生が集まっているので、小さな子どもは外出できないようにする。午後7時ごろの阿蘇シーサイドパークは外灯で明るく、夕方でも近所のお年寄りの方々が魚釣りや散歩をされていて安心」と喜んでいました。日が暮れてからも明るい雰囲気で行くことができ、楽しんでる子ども姿は本当に良かったです。

私たち夫婦に「1日も早くまた遊びに行きたい」と連絡がきます。良い感情がいつぱいの記憶はまた訪れるきっかけになるので、良い感情と記憶を伝える一番大きな要素は「人」だと思います。私も大阪に住んでいたときは、仕事に疲れて人々との交流がありませんでしたが、義父母の実家である与謝野町と伊根町に遊びに来て良い思い出を作りましたし、それが与謝野町に住むことになった原動力になりました。与謝野町の方々の優しさや与謝野町をきれいに育てていこうとする皆さんの努力と献身が大阪の知人親子にも伝わり、良い思い出を作ってくれたのではないかと思います。

山田地域と与謝野駅周辺の活性化に向け、与謝野町のPR活動をしています。与謝野町や丹後地域で活動する様子をYouTubeに公開している中で、ご覧いただけると励みになります。動画には私も映っているのですが、まだ見かけたら、気軽に声をかけてください！



Youtube